

土木森林環境委員会 県内調査活動状況

- 1 日 時 平成24年11月22日(木)
- 2 出席委員(9名)
委員長 堀内 富久
副委員長 塩澤 浩
委員 中村 正則 河西 敏郎 渡辺 英機 丹澤 和平 早川 浩
木村富貴子
- 3 欠席委員 飯島 修
- 4 地元議員(一般国道411号城東Ⅱ期バイパス橋梁工事の調査に出席)
永井 学(甲府市) 土橋 亨(甲府市) 安本 美紀(甲府市)
- 5 調査先及び調査内容
(1) 【一般国道411号城東Ⅱ期バイパス橋梁工事】(甲府市朝気地内外)

議事堂第1委員会室において、当事業の説明を受けた後、現地の視察を行った。
質疑については、現地視察をしながら、行った。



(2) 【意見交換会】

①出席者

南都留森林組合 大月市森林組合 甲斐東部材製材協同組合
甲斐東部材プレカット協同組合 甲斐東部材産地形成事業協同組合

○内容

ア 概況説明

- ・各森林組合・協同組合の概要説明
- ・林業振興と今後の展望について意見交換
- ・施設の視察

イ 主な意見

議員) 林業は有史以来、国や地域を支え、特に日本人は森林の恩恵を受けてきた歴史があるわけであるが、私も二十歳頃の2年ぐらい、営林所の伐採の仕事をしたこともあり、父も兄も林業をしていたことから、森の親しみについて、組合員と同じ気持ちを持っている。

外国からの輸入木材が入ってきて、国産材より安く買えると言う状況を目のあたりにすると、時代が変わったと感じるところであるが、そこでまず、各組合において実際、採算が取れているのかお伺いしたい。

出席者) 採算はプラスマイナスを行ったり来たりのシーソーゲームの状況である。

我々の組合は1月から12月の決算となっており、来月、決算期を迎えることとなるのだが、過去の直近2期にわたっては、わずかの黒字を生み出すことができたが、今期はプラスマイナスゼロで行ければいいといった状況である。

出席者) 当組合においても大変厳しい状況である。仕事の量はあるのだが、ただ現実では資金繰りが大変であり、特に補助事業を活用させていただいているので、事業が終わるまでの間、どうしても人件費から始まってさまざまな経費がかかり、補助金が入ってくるまでの間、どうやってしのぐのか頭を悩ませる問題である。

採算については、最終的に滑り込む形によりプラスマイナスゼロの形で収まるかもしれないが、状況を見ながら資金繰りを行っている状況である。

出席者) 正直、非常に厳しい状況である。私は上野原に住んでおり、地元でも小さい製材工場があるのだが、そうした工場を持たれる方々が集まって、安く木材を引ける設備をつくって一緒にやろうということで、この施設が創業されたわけである。そして地元の方々と行っているのだが、各々自分たちの資金繰りも大変な状況である。ただ自分がいつも感じていることは、地元の木材を自分たちの子供や孫まで伝えていくため、今、我々がやらなければ、今後30年、50年にわたる空白の部分ができる。厳しい状況ではあるが、指をくわえて見ているわけにはいかないということで頑張っているのだが、はっきり言うと、自分たちのお金を出してまで行っているのが実情である。

このまま生き残れるのかどうか、わからない状況であるが、それではいけないと

ということで、なお一層の気合いを入れて、またいろいろな方の知恵を借りながらやっていきたいと考えている。

出席者) 大してもうからないが、何とか運営ができていたという状況である。

材料はそれぞれ組合員が提供し、それを加工するというのでこの組合が操業された。したがって組合員には、かなりの便宜を図っているつもりである。

組合の運営においては、現在、多少の利益は出ている状況である。この施設が1,500坪ぐらいの設備であるが、将来的に静岡県の周辺でこの施設の10倍ぐらいの規模の工場が2つ、3つできるということを聞いており、反対にこのぐらいの施設の規模で良かったと胸をなでおろしているところである。

古いプレカット工場というのは、今や淘汰されて駄目になる時代に入っている。実際、1万坪、2万坪といった工場が次々にできているので、このような施設と価格の競争をしても、ひとたまりもないというのが現状である。

出席者) 木材市場は材積的に同じものを扱うのだが、この材積に対して3万円で売れるものもあれば1万円にしかならないものもある。手数料は6%をもらっているが、そこに市場の難しさがあって、薄利多売の薄利の部分が進んでいる状況である。

この施設は1万4,000立方メートルであり、2年ぐらい前は杉、ヒノキ、アカマツ、カラマツをあわせて8,000立方メートルの平均が11,000円ぐらいであったものが、今年はだいぶ落ちてきて9,000円を割ってしまうのではないかとこの予測をしている。そうかと言って、市場をやめてしまうわけにはいかず、組合における経費の中で切り詰められるものは削減を行うなどして、ここでなんとか生き残って、例えば10年後、いよいよという時代になったときにはその効果が出てくればいいと思っている。

外材については、例えばロシアで言うと、プーチン大統領が輸出関税を80%に引き上げたりしたのだが、ロシアの木は150年でこのぐらいの大きさになる。そしてきめが細かく、非常に堅く、それからよく乾燥されている。こうした手法を国内の製材業者も見習って、またよく勉強していただき、材木を商品として売りたいという気持ちで行って欲しい。我々もそれにこたえて高い値段で売りたいという気持ちである。現在の経営は決して楽ではないが、一生懸命やらせていただいている。

議員) 厳しいだろうということは推測してが、話を聞いていてどこの組合も大変な状況だと感じた。今年の9月に土木森林環境委員会で大分県の佐伯広域森林組合に県外調査を行ったのだが、その経営は非常に良い具合で進んでいるとの話であった。組合として今後どうすれば良くなるのかということ、また県とのかかわりの中で何か希望することがあったら、お聞かせいただきたい。

出席者) ここに並んでいる組合員全員が感じていることであるのだが、やはり各自自治体において材木をもっと活用していただきたい。木材を親しむ環境を小学校や中学校のときから持ってもらえると、木に対する考え方が相当変わってくると思う。やはり日本の気候には国内産の木材が合っているので、その辺をPRしながら、各自自治体における公共施設についても全て県産の木材でつくるといった積極的な姿勢を示していただきたい。

議員) 県産材を公共施設に使うって欲しいとのことだが、私の地元の小学校でも、相当、県産材を使って、子供たちも木のぬくもりの良さを感じていると思う。

先ほどの話でも出たが、大分県の佐伯広域森林組合ではさまざまな試みを行っているようであった。県産材をもっと触れてもらいたい、あるいは子供たちに山梨県にはこういった木材があって、こういう使い方があるんだと言ったことをさまざまな形の中でアピールしてもいいのではないかと思うが、実際、組合においてそうした取り組みを行っているのか。

出席者) この甲斐東部材協同組合については、今のところそのような取り組みはしていない。今後、公共施設に対する建築、それから大型木材などにも対応するために、来年の年始めぐらいになるが、プレカット工場の中に大断面、中断面といった集成材を加工する機械を導入する計画である。今、大型木材になると、コスト的にRC建築物と値段がそれ程変わらないのが現状である。

木造は鉄骨造りより高くつくのであるが、もう少しコストを下げるようにして、RC建築物よりも安く仕上げられるような供給体制が必要であると思っている。

このプレカット工場では住宅専門の加工を行っているのだが、木造であれば、住宅だろうと、公共施設だろうとやれないことはない。機械等を導入してコストダウンが図られるような木材を使った設計を構造設計の段階から取り組もうという考えを持っており、本格的に動き出すのは来年の3月以降になるが、今、こういった取り組みにしていくのか検討をしている。

出席者) 我々、森林組合の中でも新たな動きが出始めている。

今、道を入れて材木を出しても、価格や需要の問題もあって材木の行き場を失っているのが現状であるが、少しずつ地道な努力を行う中で材木の利活用を検討している。1年前から大手である生活協同組合と連携して、今後、富士東部地域の材木を使っておもちゃの製作を行うということで企画やデザインといったことを進めている。カタログに掲載される会員数が75万人から100万人ぐらいいるのだが、地元の材木を広く知らしめてそれにより収益を上げようと展開を図っているところである。それで、上手く波に乗れば、違った商品構成もどんどん展開して行って、地元の材木を活用の促進につながってくるものだと思う。家が建つほどの大きな需要までいくかどうかわからないが、そうした小さな動きではあるが行っているところである。

出席者) この地域を流れている桂川は相模川の上流になることから、この地域は相模川流域という考えの中で、今度、神奈川県相模原市が建てる市営住宅などに木材を利用するというところで、相模原市と協議を行っているところである。富士・東部林務環境事務所の大竹所長の協力もいただく中で、現在、相模原市と接触を始めているので、県議会議員の皆様におかれても、バックアップをお願いしたい。

議員) 相模川流域に係る連携についてであるが、これまで相模原市では、しいたけの原木を福島県から仕入れていたのだが福島原発の事故もあって非常に少なくなったということで、そこで、相模川の上流にあたる富士東部地域のほうに相談が

あったという話を伺っているのだが、それについて教えていただきたい。

出席者) 福島原発の事故以降、放射能セシウムの問題で東北のしいたけの原木、それから、わらの出荷ができない状況で、そうしたことから、神奈川県森林組合から山梨県森林組合のほうに何とか供給手配ができないかという相談があり、これまでに1年以上協議を重ねてきたのだが、ついこの間、契約締結の調印に至った。

本県では南都留森林組合、大月市森林組合、富士北麓森林組合、北都留森林組合の4つの森林組合と3つの神奈川県の森林組合で構成されており、しいたけの原木や、わらの供給体制の安定化を図っていくものであるが、今後、こうした神奈川県側の森林組合との連携を深めながら行っていくこととなる。現在、しいたけの原木の商品の提供のみということであるが、ゆくゆくは、富士東部地域の森林整備や水源地域周辺の山の整備に対しても、予算面、人的支援も含めた形で神奈川県との連携を深めていこうということまで話を進めているところである。

議員) 森林面積が本県県土の80%ほどになる本県の環境保全のために従事している方々の努力に感謝している。

たまたまテレビを見ていたら、国内で外国の木材がどれだけ使われているのか、そして日本も見習って国産材の需要の拡大を図っていくという内容であったのだが、ただ木を切って植えるということではなく、何が求められているのかといったことをしっかりと見極めを行って、それに向けて努力することが重要である。

木はどんどんと大きくなっていくわけであり、また、新たに木を植えなければならないこともあり、県でもしっかりと応援していきたい。

資料の中で甲斐東部材製材協同組合においては、FSC材製品の販路拡大に努めるとあるが、これは国際的な森林認証制度であり、先ほど話があった、おもちゃの製作においても、ぜひFSC材製品で開発していただきたい。

議員) 私は、過去に秋田県能代市二ツ井町の小学校を視察したのであるが、そこは3階建てで体育館や厨房まで木造であった。二ツ井町の教育長と話をしたとき、耐震性や耐火性、それから耐寒性に対して大丈夫かという質問をしたところ、全く問題はなく、むしろ学校の先生方は子供たちのひざより下の負担が少なくてすむことや、声が反響しないことから授業がしやすい、そして、子供たちの情緒が安定したとのことである。そして何故この地域は木造化が進んでいるのかと尋ねたら、もちろん、県も助成を行ってはいるのだが、市自体が自分たちの材木を活用しないと、いくらほかの県に対して使ってくれと言っても使われない。だから、まず自分たちの地元から取り組もうということなのである。その話を本県の森林環境部にして、何故本県はできないのかと聞いたら、構造材がなく、秋田県のようにすべての材木が県産材で整わないということで、山梨県では進まないとのことである。今、話を聞くと、構造材もできる。あと、すべての材木が県産材で整わなければ駄目なのかどうかはわからないが、そういう努力をしていかないと需要が高まらない。確かに向こうでも木造と鉄筋とで単価はどちらが高いかと聞いたら、変わらないとの答えであった。

先進地でもある秋田県においても、学校の先生方が本当に良いと言っており、あれから何年か経過しているので、さらに良い点も出てきたかとは思いますが、ぜ

ひ組合の皆さんにおかれても、そうした先進事例を見ていただいて、まず使ってもらおうということをしないと、いくら良い材木を出してやっても、使ってもらわなければ、何にもならないわけであるので、ぜひ頑張ってください。

テレビや新聞などの報道によると、最近、若い方が森林組合に入っていると聞きますが、本県の森林組みにおいても同様の傾向があるのか、また、森林組合にどのような魅力があって入ってくるのか、わかったら教えてほしい。

出席者) 当組合でも3年前に組織再編がされ、職員が誰もいない状況から公募により、現在の職員体制になったわけであるが、私ももともと別の業種からの転入組であり、現在9名いるが、20代が2人、30代が1人、40代が2人、50代が2人、60代が2人という状況であり、極端に若いという程の組織ではない。また、若い人が森林組合にどのような魅力があって入ってきたかどうかにについてはわからない。

出席者) 3年前に「緑の雇用事業」があって、森林、林業に関心を持っている方はふえているのではないかと考えている。その際、採用した年齢構成は30代及び40代であるが、大月市内で1人、県外で2人を採用したところである。魅力についてであるが、やはり今回、森林環境税の導入もあり、市民や県民がかなり関心を持っており、そうしたことを踏まえ、これだけの雇用があったかと思われる。県におかれては、これからも、さまざまな機会を通じて情報発信をしていただければありがたい。



※ 甲斐東部材産地形成事業協同組合会議室において、意見交換を行った。

以 上